

【第 1 回なかしべつ協働の景観ミーティング開催報告】

◇日 時：平成29年6月27日（火） 19：00～21：20

◇場 所：中標津町役場3階 301会議室

◇参加者：20名

【意見交換】

テーマ：協働の景観まちづくりの目的の共有

○前提

景観計画を策定し、その次の段階として景観計画を実行していかなければいけないが、それは行政、事業者、町民、活動団体などが協力して、計画に沿って実行していく必要がある。

○共有事項

①協働の景観まちづくりの目的

- ・「まちへの誇りや愛着を持てる“ふるさとなかしべつ”町民がいきいきと住み続けられる持続可能なまち」の実現

②本ミーティングの目指す姿

- ・景観整備機構があればより協働で進められるという話が以前より出ていた。
- ・去年のワークショップで参加者より景観整備機構の必要性について同意を得た。
- ・今のところ、どんな組織が景観整備機構になるのか、中標津らしい景観整備機構はどんな人が集まり、実際に何をするのかということについては話し合われていない。
- ・これから2年間景観整備機構について検討するが、景観整備機構が出来るという話になるか、中標津には必要ないという話になるか、まだ分からないが、今回は最初のスタートラインとなる。
- ・ほかの市町村を参考に話し合っていきたいが、今回はどんどん話を進めていくのではなく、今後2年かけて話し合っていくということについて共有し、今回決めたいことについて話したい。

○ここまでの話を聞いて

- ・初参加なのでまずは話を聞いて全体の動きを把握していきたい。
- ・看板を同じ色で統一し、一体感を持たせる取組などもある。看板だけでなく、街並みとしてやっていくのであれば素晴らしいと思う。
- ・子どもの世代まで受け継がれていくことに参加できることを嬉しく思う。
- ・率直な意見として、まだスタートラインなのかという気持ちがある。
- ・参加として必要なメンバーが来ていないことに拍子抜けしてしまう。

- ・色々な業種の方が知恵を出して機構を作らと思うので、もっと声をかけている団体のトップが一堂に会せば話が進めやすいと思う。
- ・個人的には具体的に組織を作り始める段階で来る人來ない人を気にしたほうがいいと思う。
- ・最初のうちにあった交流会などの意見交換があつて今がある、遅いと思われるかもしれないが1歩ずつ踏み出すことが大切だと思う
- ・中心は建築士会、観光協会、商工会になると思うが、その場合に一般市民はやってもらえるから自分は何にもしなくてもいいという意識になってしまう。参加することで興味が出ると思うので、もっと興味のない人をワークショップなどで増やせばやりやすくなると思う。

○協議事項

①本ミーティングの名称

- ・名称：なかしべつ協働の景観まちづくりミーティング
- ・愛称は：TPC (Town_Planning_Community)
- ・確定ではなく、次回までの宿題

②情報発信手法

- ・情報発信をすることに関しては意義なし
- ・Facebook で発信、慣れてきたら Instagram も検討

③情報発信者（役割分担）

- ・Facebook の編集は複数人に権限を与えて、各自で更新
- ・ミーティングの結果報告、自分（所属団体）が行った景観まちづくり活動の報告、自分好みの景観の写真を上げる、Facebook をやっていない人の活動をピックアップなど

④WS の年間スケジュールをふまえた第2回目からの進め方について

配布資料<スケジュール案>に基づいて説明

- ・景観色については特に建設業や看板業の方に参加してもらいたいが、スケジュールが合わない場合は個別に対応したい
- ・景観色の検討をすること自体については意義なし
- ・10月6日ワークショップを予定していたが、10月20日に変更
- ・計根別ワークショップは計根別以外の方も参加可能
- ・2月にもワークショップを予定していたが、1月15日に変更（1月末は冬まつり）

- ・フォーラムはなにをするかによって曜日、時間、会場が変わるので内容が固まるまで決められない。景観学習の結果報告をするのであれば、小学生の参加を考えて、週末の昼間がいいと思う。札幌では色のかるたを作った。そういうので小学生に関わってもらいたい。

【まとめ・振り返り】

- ・情報共有については、町民に対する意識をどう啓発したらいいか、団体や事業者だけで動くのは組織としての考え方が変わってしまうので避けたい。
- ・他の活動団体の活動内容をもっと知りたいので情報交流したい。
- ・Facebook で発信されても受信することができない、その範囲でやるのは良いが、情報発信の視野を明確にしないとわかる人はわかる、わからない人はわからないということになってしまう。
- ・中標津に緑の部分が何%くらいあればいいのかという、ざっくりとしたものから入ったらどうかと思う。
- ・整備機構と言っているが要は人づくりだと思うので、育てるためにもっと役場の中でも関係部署の職員を入れてもいいと思う。
- ・機構そのものが活動するのではなく、最終的に調整する組織が機構になるのであって、具体的な取り組みは今後検討していけばいいと思う。
- ・1回休むことで次からついていけなくなるということがなくなるように Facebook だけでなく紙媒体で発信する必要がある。
- ・ウォーミングアップが長いのもいいが、そろそろスタートしたいという意見に賛成
- ・子供だけがもっている想像や意見を取り入れてほしい。
- ・子供も大人もずっと中標津に住んでいたいというまちづくり。
- ・忙しくて参加できない人にも意見はあるが、考える暇がなかったり、参加できなかったりと思うので、特に若い人の意見を集める必要がある。
- ・今日に見えるもの、あるものも素晴らしいと思うが、歴史や季節感で面白いものを探すのもいいと思う。
- ・今までにいろんなプランがあったが途中で有耶無耶になることも多い。もっと議論しあう必要がある。
- ・この町がどうなってほしいか、どんな街に住みたいかということをもっと共有。イメージできるようになったほうがいい
- ・話をしていた人たちがリードしていくが、バランスが大変。うまいこと引っ張っていつてくれる団体が欲しい。
- ・子供たちの未来につながっていくという部分が大きいと思う。
- ・Facebook での情報発信は、子どもたちにも伝わらないので年に2、3回は子供たちにわかりやすい情報発信（紙媒体）が欲しい。

- ・名前自体が子どもやその他町民にはわかりにくいかもしれないから、わかりやすい名前のほうがいいかもしれない。みんなが興味をもち受け入れやすいフランクな名前を考えたい。
- ・子供たちの視線が大事、景観のくくりでアンケートをとって中標津のいいところを聞けばなにかしらのきっかけになるかもしれない。
- ・活動を広めていくにあたって、観光協会に冊子をおいてもらったり、広報にいれるとか、空港や開陽台のような人の集まる場所にもわかるようなものを置けば広がっていくんじゃないかと思う。
- ・いろんな人の話を聞いて参考になった。それを踏まえて自分自身考えて今後も参加していきたい。
- ・みんないろいろと町のことを考えているが、あまり考えていない世代、子育て世代は家庭のことが大変で考えられない。50代くらいから考えられるようになる。もっと子育て世代や忙しくて考えられない世代にも興味をもってもらって、考えられるような切っ掛けが与えられるものが欲しい
- ・外部の人の目がとても大切になると思う。開陽台などにアンケートなどを置いて意見などを集めるのも必要だと思う。

(おわり)